

学部・研究科等の現況調査表

教 育

平成22年6月

筑波大学

目 次

1 2. (ビジネス研究科) 法曹専攻	1 2-1
---------------------	-------

12. ビジネス科学研究科法曹専攻

Ⅱ 分析項目ごとの水準の判断	・ ・ ・ ・ ・ 12-2
分析項目Ⅴ 進路・就職の状況	・ ・ ・ ・ ・ 12-2

分析項目Ⅴ 進路・就職の状況

(1) 観点ごとの分析

観点 卒業(修了)後の進路の状況

(観点に係る状況)

平成 17 年度に創設された本専攻は、平成 19 年度末に初めての修了生を送り出した。厳格な修了判定にもかかわらず、入学者 40 名のうち 31 名が修了、平成 20 年度末には 36 名、平成 21 年度末には 32 名が修了し、修了率は良好であった。修了者数、進路状況および新司法試験受験結果を下表に示す。学生は原則有職者であるため、修了後もそれまでの仕事を続けている者が大多数であり、修了後の仕事の中で在学中の勉学が役に立ったとの声が多い。

【修了者数及び進路状況】

	修了者	進 路 内 訳				
		会社員	公務員等	※法律事務所等	教員	未定
平成 19 年度	31 名	15 名	12 名	1 名	1 名	2 名
平成 20 年度	36 名	16 名	15 名	4 名	0 名	1 名
平成 21 年度	32 名	11 名	10 名	7 名	0 名	4 名

(*法律事務所、司法書士事務所、特許事務所)

【新司法試験受験結果】

	出願者数	受験者数	合格者数	備考
平成 20 年	29 名	26 名	5 名 (1)	
平成 21 年	57 名	34 名	3 名 (1)	

【旧司法試験 合格者 1 名 (1) (平成 17 年、合格後退学)】

観点 関係者からの評価

(観点に係る状況)

新司法試験の合格者は平成 20 年に 5 名、平成 21 年に 3 名であったが、本法科大学院は夜間社会人学生向けに開設されたものであり、修了後に職場において学修の成果を活かす学生も多いことを鑑みる必要がある。具体的には、本法科大学院で修得した知識(特に展開・先端科目に関する)に基づいて職場である金融系シンクタンクのジャーナルに研究成果をまとめて公表した例、修了が評価され会社で営業から法務担当にポジションが変更された例、修了後知財部門の責任者に昇任した例がある。また、修了後海外の大学院にて勉学を継続する者や研究者を志望すべく博士進学に取り組む者もいる。本法科大学院の有識者会議の委員はこれらの事例を高く評価しており、本年度の志願倍率が 6 倍であったことも社会の期待を示すものである。

(2) 分析項目の水準及びその判断理由

(水準) 期待される水準にある

(判断理由)

新司法試験の合格者数は改善の必要があるが、社会人である学生に多様な可能性を身につけさせた意義は大きく、修了生の修了後の活動状況および関係者の意見からも期待される水準にあると判断できる。